

後期後半が始まります

17日間の冬休みが終わりました。年末年始の地域の行事に参加したり、初日の出、初詣で新年の抱負を抱いたり人も多いと思います。冬休み前、みなさんに期待する3つのこと

- ① 工夫して体と心を鍛える(免疫力を高める)
- ② 自分で決めた学習に取り組む
- ③ 家族や地域から喜ばれることに挑戦する

を伝えていましたが、私の冬休みを振り返ってみると、①については元日に地元のマラソン大会(といっても2kmです)に出ました。孫と一緒に走ってゴールしなければいけません。とても楽しかったですが、翌日、筋肉痛になり運動不足を感じました。そして正月で太りました。今年は少し運動しようと思っています。②については図書館から10冊本を借りて読み終わりました。今年も2週間で10冊ずつ、いろんな本を借りて読もうと思っています。③については地域の地区委員をしていますので12/31、1/1 越年の行事で地域の神社境内で火を焚いて夜通し番を行いました。今年も地元にご貢献できることをやっていきます。みなさんはいかがでしたか？



心のアンケート集計結果より

冬休み前に「心のアンケート」を実施しました。たくさんの質問項目がありましたので、数回に分けて結果の概要を紹介します。

1. 実施人数

1年	2年	3年	合計
174	187	165	526

2. 質問項目

(1) 学校が楽しい。(7楽しい+1まあまあ楽しいの合計数)

1年	2年	3年	合計
145(83%)	164(88%)	149(90%)	458(87%)

(2) 誰かの役に立っている。

1年	2年	3年	合計
103(59%)	116(62%)	130(79%)	349(66%)

(3) 授業がよくわかる。

1年	2年	3年	合計
140(80%)	155(83%)	140(85%)	435(83%)

(4) 自信のある事や、自慢できるものがある。

1年	2年	3年	合計
126(72%)	134(72%)	135(82%)	395(75%)

学校は集団生活や社会性を学ぶ場でもありますので、自分の思い通りにならないことや、苦手なことにもチャレンジしなければならない時もあります。それでも学年が上がるにつれて肯定的に捉えている人の割合が増えているのは3年生や各学年のリーダーを中心に協力して、励ましあいながら、切磋琢磨して勉強や行事に取り組んでいる証拠です。「自信のあることや自慢できるものがある」「誰かの役に立っている」と実感できる事は生きがいにつながります。

We can do it !

～無限大の可能性を信じて～

今年も頑張りましょう。

予測不可能な災害、事故

1月1日(月)夕方4時頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震があり、志賀町で震度7の揺れを観測しました。気象庁は、今回の一連の地震活動を「令和6年能登半島地震」と名付けましたが、各地で火事、土砂崩れ、道路損壊、断水、停電等の甚大な被害が出ています。熊本で平成28年(2016年)4月に発生した震度7の熊本地震を思い出しました。

また、1月2日(火)夕方、東京都羽田空港で日本航空の旅客機と能登半島地震の支援に向かおうとしていた海上保安庁の航空機が衝突炎上し死者が出ました。たくさんの悲しい現実が報道されています。

しかし、炎上した日航機から乗客乗員379人全員が無事に脱出した事について、欧米各紙は「奇跡を目撃した」「客室乗務員(CA)たちは素晴らしい仕事した」などと称賛の声を伝えています。記事の見出しには「ミラクル」という言葉が並び、「あの飛行機から乗客全員を降ろした方法は、ほとんど信じられないほどだ」「CAたちの反応速度は目を見張るものがあった。本当に奇跡だった」との元パイロットや旅客機安全教育専門家の話を書いてありました。事故の発生は2日午後5時47分ごろ。炎上した機体から脱出シューターを使って乗客乗員全員が機内から機外に脱出し、安全な場所に避難を完了したのは18分後の6時5分だったそうです。

避難訓練の重要性(奇跡の18分)

「まるで教科書のような緊急避難」というフレーズがSNSで拡散され、感動の輪が広がっています。奇跡の脱出劇は、多くのメディアでも報道されているように、客室乗務員の冷静で的確な避難誘導と日本人が普段から避難訓練をしっかりとやっていて、疎かにしていない日頃の地道な訓練の成果という称賛の声があがっています。

関連記事を見ると乗客乗員の脱出を支えた一因とみられるのが「90秒ルール」と呼ばれる原則です。国際的な航空機の設計基準は、脱出シューターが開いてから90秒以内に搭乗者全員が脱出できるように定めてあるそうです。日本航空では旅客機の乗員には年1回、90秒以内の避難誘導の訓練(社員が乗客役となり、幼児がいる、機内外が暗いなど様々な状況を想定して実施)があるそうです。

合わせて、日本の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校等での年に何回か計画実施されている各種防災避難訓練等が功を奏したと考えられます。乗客からは「指示に従い落ち着いて避難を待った」「大きなパニックになっている人はいなかった」との声も聞かれたそうです。三中でも学校だよりNo.19で紹介した火災避難訓練等を年に数回行っています。



悲しい現実も

しかし今回の地震に便乗した詐欺行為等の犯罪が懸念されるとして、防犯メール等で注意喚起を行っている都道府県もあります。具体的には、虚偽の寄付、寄付金を募るもの・震災に関連した虚偽の情報・官公庁等を装った虚偽の要請などを挙げています。対策として「即答しないこと、そして自分のみで内容を判断しないこと」「一つの情報をうのみにしないこと」が大事と指摘しています。ソーシャルメディアの問題点として学校で学んでいることと重なります。